

様式第2（第5条関係）

会議録

1 附属機関の名称

犬山市自殺対策推進協議会

2 開催日時

令和5年2月7日（火） 午後2時～3時30分

3 開催場所

市民健康館 204会議室

4 出席した者の氏名

（1） 委 員 黒川 淳一、緒方 未輝子、有馬 幸宏、藤井 和子、
渡辺 ゆかり、水野 幹伸、青木 大、内藤 慎二

（2） 執行機関 健康推進課（松澤課長、野村補佐、増井、川添）

5 議題

協議事項

- （1）犬山市の自殺の現状について
- （2）コロナ禍における自殺の動向と犬山市における自殺対策事業について
- （3）第2期自殺対策計画策定に向けて

その他

6 傍聴人の数 0人

7 内容

（1）あいさつ

事務局：定刻になりましたので、これより令和4年度犬山市自殺対策推進協議会を開催します。委員の皆様におかれましては、ご多用のなかご出席いただき誠にありがとうございます。

（欠席委員の報告と会成立について説明）

（資料確認）

（会長選出）

会 長：（署名者の指名）

自殺対策推進協議会ということで続けて実施させていただいているが、コロナが足

をはさみ、3年間ほとんど書面会議という形でしか開催できず残念でした。これから形のあるものにしていきたいと思っています。

自殺対策で平成10年に自殺者数が3万人に増えて以降、ずっと、高止まりとなり平成18年に自殺対策基本法が厚生労働省によって策定されて以降、このような各県・各市でいろいろな取り組みがされてきて、自殺者数は減りました。一時3万8千人までいった自殺者数が、コロナに入る直前が確か一番少なくて2万人強だったかと思います。

これは何が効いたかという事を考えていく必要があるが、このような会議のような地道な努力といいますか、キャンペーンなどもあるかと思います。車の場合ですと、死亡を防ぐために性能を上げましょうこういった分かりやすい話で亡くなる方が減っていったわけですが、精神科においてはみなさん知っての通り、ケースバイケースになってくるわけで、何かマニュアルを作ったから良いとかそういう単純なものではなく、現場で対応にあたっている皆様の丁寧な対応と言いますか、地道な努力の積み重ねが功を奏してきたと、3万人が2万人になったことで、そういった事を実感していました。

コロナが重なってしまって、今後どうなるのかと危惧していたところで、精神科的感覺で言いますと、海外でも大きな問題が起こっているところですが、そういった大きな問題が起こっている最中には自殺はあまり起きない。問題は大きなことが終わった後に自殺者が増えることだと言われている。日本では平成の自殺が増えていた時期より、戦後の自殺者数が一番多かったと言われている、大きな混乱がおわったあとが大事になる。

コロナが5月で5類になりますが、人的にも経済的にも疲弊やほころびが出やすくなる。制度の後ろ盾が失われ始めるこのタイミングからが色々なところでトラブルが発生するのではないかなと私が心配しているところでございます。

コロナ前に2万ぴったりくらいだった自殺者数が、昨年あたりから少し増えている。今後も自殺者が増えるのではないか。そして今自殺者数を押し上げているのは何かというと、若年者が亡くなっているケースが非常に多い。部屋にこもってネットを見て、人とのコミュニケーションが断絶、悩みに悩んで自殺していく子供さんが増えていまして、この会議犬山市一丸となって、自殺を一件でも減らしていけるような取り組みにしていきたいと思っています。せっかくの機会ですので、皆様からの忌憚ないご意見を頂戴したいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

（2）協議事項

会 長：協議事項（1）の「犬山市の自殺の現状について」事務局より説明願います。

事務局：（犬山市の自殺の現状について説明）

会 長：いくつかキーワードをいただいたかと思うのですが、平成18年当時は病気を苦にして亡くなる人が多いんじゃないかということで話があったかと思うのですが、ふたを開けてみると自殺している人もトレンドを見ると考察されていた話と違う。40代50代の男性が多かったり、年齢的に病気を苦にしてではなさそうで。犬山市の自殺の特徴で経済的な困窮が背景にありそうという考察でしたが、この問題は避けては通れない関係にあるかなと。また経済的な問題になると医療機関では助けてあげられない問題ですから、労働系の所属のかたに参加いただいて、そのあたり手厚くしていきたいといったところですが、最近、自殺で危機的な状況で運ばれているケースは少なくなっている。自殺をほのめかすケースの方が、SOSを出せているとも考えられる。そういったSOSを追い詰められてから発するのではなく、日頃から拾い上げられるように相談窓口で手厚くやっていきたい。後は健康推進課でやっているところの健康相談をもっと知っていただきたい、利用していただきたい。今後も市民にアピールしていきたい。できるだけ敷居を下げて対応していきたい。

自殺者数が7件から13件に増えて、引き続き手厚く支援の手を緩めることなく一生懸命やっている中で、市民には声をあげられる機会を供与し続けることが大事ではないかなと思っております。

協議事項（2）「コロナ禍における自殺の動向と犬山市における自殺対策事業について」事務局より説明願います。

事務局：（コロナ禍における自殺の動向と犬山市における自殺対策事業について説明）

会 長：一番目を引くのは若年の悩みで、親御さんが抱えて相談にみえる、見て見ぬふりはできない案件かなと思います。親としては学校へ行ってほしいですし、学校の中の学びや遊びの機会やふれあいの機会は一生においてかけがえのないものですから。一方子供さんの方は色んなものを前にして立ち尽くしたり、たじろいってしまったまま身動き取れない。子どもも親の気持ちがわからないわけではないが、まだ若いのが故に力不足で乗り越えられない。親の焦りを子どもが感じとって、とまた悪循環も起こっている。お互い悪意があってやっтерわけではないという。この問題は中々結果が伴わないものですから、親に焦りが出てきてしまう。親の顔色を子どもが感じ取って萎縮してしまい、その悪循環から抜け出せなくなる。こういった問題を根本的に解決していくには、もうちょっと大きな建付けと言いますか、家と学校の間のような支援が必要になってくるところでございます。

岐阜市では引きこもりの専門の学校というのがコロナの間に開設されて、授業だとかそういう事にこだわっていなくて、来てさえくればオッケーという、全国的にもそういう大きな動きもある。そうなってくると、教育の先生方と色々な取り組みを共有したりとか、直接自殺対策ではないけれど、そういうことの積み重ねが

そういうことを防ぐ取組になるのではないか。さしあたりは、親御さんに引きこもりの構図を理解していただくところから始めるという機会として引きこもり講演会を実施していただきました。

感染症対策で息苦しい中、人と会ってはいけないという事でしたから、SNS などを推奨した点もありますが、個々の中でまた人間関係に悩むだとか、新しい課題も浮き彫りになっている。パソコンなど詳しい方がみえたのならお話いただきたい。ではせっかくの機会でありますので、今日ご参加いただいた委員の方からご意見いただければと思います。

委員：昨年が書面会議で、その時は母数が少ないので数だけでは追えないが、私が関わっている部分では、うつ→リワークリモートワークが増えて、むしろコロナ対策により回復した方もいる。

学校や入院・入所中の方では、行動制限で楽しみが減っていて、病院内でもままならず、メンタルヘルスの問題は起こっている。自殺の相談は減っている。認知症の相談は増えている印象。

委員：市民からの相談で死にたいという相談も受けることがある。どんな要因を抱えているのか、深く聞いてサービスへつなげていくが、相談いただいたのに亡くなった方もいる。若いうちからいじめにあって引きこもって 50 歳になり、8050 問題として上がってくるケースもある。本人としてはご両親もいて生活が成り立っているのに、問題と思っていなくて、両親が困っている。引きこもりを外に出すのが難しい。あまり子どものことを話したくない人もいる。あとは働き盛りのひとの障害や年を重ねた方の人生への喪失感であったり、そういう方が死にたいという気持ちに繋がらないよう支援していきたいと考えています。

委員：自分の地区の方で自殺してしまった方がいて、大好きだった母親が 7-8 年前に亡くなって、兄も無職。父もおとし亡くなり兄弟 2 人だった。次男が責任を感じて引きこもりになっていた。死にたいということに対して何もしてあげられることがなくて、亡くなってしまったのが残念で、何かできることは無かったのかと考えてしまう。

あとは、電車への飛び込み、人身事故のニュースなど見ると、もしかしてコロナで困って亡くなられたのでは、と思ってしまう。

委員：その方の父親の介護を支援していたので訪問していたが、その方の死にたいという気持ちも聞いていて、部屋にロープが垂れ下がっていないかとチェックしたり、本人の心の支えに少しでもなればと関わっていたが、父親が亡くなってから、何か月かして亡くなってしまった。犬山市の自殺の特徴からも、男性 60 歳以上無職同居とあるが、65-74 歳の孤独死が多い。

65 歳くらいで延長雇用が終わったら、家の中はアルコールの缶だらけで酒浸りに

なってしまうケースもある。自暴自棄なのか楽しみがなかったのか。老人クラブに若いけど入るとか出来たら良かったのだろうか。今後、高齢者世帯の訪問強化を検討している。

委員：ここ三年、中学生の自殺は聞いていない。家族葬も多く、家族の方がどういう風に亡くなられたのかも詳しい状況が分からないこともある。学校では一人も自殺者を出せないで緊迫感はある。

この時期は受験も控えているし、衝動的にそういうことが起こることもある。

義務教育では命を大切にする教育を大切にしている、人権教育、がんの話、スクールカウンセラーからの話、県からリーフレットで教育を行っている。

自然教室でどうにもならない状況で過ごすことで、耐性が付けばと思っている。

自殺は個人的な対応になってきます。教育相談（卒後5年間保存）やスクールカウンセラーとの面談を実施しています。ただ、いじめなどはあまり語られない。

学校で使用しているタブレットのカテゴリーチェックで、子供の検索を確認して「自殺」等の検索している子がいないか注意している。

また、教員がうつで休むこともあり、情熱的な方に限って心が折れたりする。

産業医の相談も行っているが、ある日突然来なくなるということが多い。

不登校は増えているが、コロナでオンラインの授業は便利になったかなと。

不登校の子の居場所づくりでは二か所あり、ゆうゆう（フロイデ）は勉強したい子、わいわい（モンキーパークの近く）の方はもっと遊べる場所。

進学については、全体的に通信制への進学が増えている。会話の切り口に自殺をほめかす子はいます。リストカットは女生徒が多いのが特徴。不安定な子たちが、学校では大丈夫だが、義務教育を出た後が心配。

委員：失業・退職がきっかけで自殺への矢印がスタートしているということがありますので、雇用保険、失業保険の受給者には早く再就職できるようにしていきたいと思っています。長期的に失業状態になれば生活が乱れたり、心が乱れたりするのは承知しており、なるべく早く再就職できるよう支援している。

相談に来る方はなるべく早く就職したいという意欲を持ってこられているが、相談まで来られない、玄関まで来てかえってしまう方もいる。玄関にも相談窓口チラシを置かせていただいているが、今後も周知していきたい。

委員：少年健全育成の方でサポート等していたが、遺書があれば原因がわかるが、原因がわからない場合が多々ある。衝動的としか思えないケースもあるし、計画的なケースではアマゾンでトリカブトを購入したりするケースもある。衝動的で原因もわからないケースは困ってしまう。

市の方でも重層的支援をしていただいているが、高齢者の引きこもりで母親が亡くなっても母親の年金目当てに誰にも知らせないケースもあった。これもお母さんに声を上げてもらわないと事前に把握できない。

会 長：本日欠席の委員にもコメントをいただいておりますので共有させていただきます。

事務局：ではご紹介させていただきます。

国の自殺総合対策大綱が閣議決定されましたが、愛知県の自殺対策計画構想は、令和5年6月に公表予定となっています。

コロナ禍で女性の自殺率が高くなっているということで、国は女性・若者の自殺対策で力をおいていますが、県としては、新規事業は行わず、既存事業の拡充を予定しています。SNS相談の件数は増加傾向で、特に女性・若者の利用が多く、同意を得られたハイリスク者は保健所につながっています。

犬山市では男性の自殺者が多く、8050問題においても男性の発達障害が多く、親が高齢になって初めて顕在化するケースが多い印象です。もっと早い段階（6030）くらいで支援ができればと考えています。

続いてもう一名の委員からのコメントを紹介いたします。

自殺対策の取り組みはできていませんが、メンタルで休まれる社員が一人暮らしの場合は実家に帰ってもらっています。それができない人にはLINE等で連絡を取り生存確認を行っています。メンタルや悩みを抱えている人の中には周囲が見えず、相談窓口で連絡しようとする余裕がない人も居ると思います。周囲がその人の変化に気づき、声を掛ける世の中にしていかなければいけないと思います。民間企業も成果主義となっており、すべての労働者が明るく楽しく働ける環境ではなくなってきています。労働組合としてできる限り組合員と寄り添っていきたいと思います。

会 長：いろいろな複合要因の結果として自殺という形で表れていると思うのですが、8050問題の話も出ましたが、最初から躓いてしまって、挽回するチャンスをつかめないまま家に引きこもり、経済的に親御さんが支えられるうちは良いが、支えられなくなったときに問題として上がってくる。また、相談を聴いている人のストレスというのもある。受け取ったはいいが、どこに相談していいのか。その方をまた支えていくのが大事。学んでいただくことと、学ぶところにいけば相談できる人の顔もわかりますので、受け皿の心の深さを広げていくことになる。

衝動性への課題をどうするのかとか、一方向からだけではなく色んな方向からスポットライトを当てて、いろんなケースがありうるので委員の皆様のいろいろな知見を共有して具体的な対策を立てていく。そんな機会にできたらと、手の付く課題から、対応する力を養っていきたいと考えております。

他にご意見はいかがでしょうか。

委 員：重点施策11番子ども若者の自殺対策の推進というところで、もう一つ。SNSのトラブルで相談に来る子が多い。SNSは一斉なので、都会田舎関係ない。

使い方や付き合い方を勉強していかななくてはならない。

会 長：SNSで叩かれたから今日来ましたという人もいる。

SNSに明るい方を呼ぶのもいいかもしれない。所作などについてご教授いただ
いてその上で具体策を考えていけたらいいかなと思います。子供さんに限らず、す
べての年代に共通することかなと思いますので。

続いて、協議事項（３）の「第２期犬山市自殺対策計画の策定」について
事務局より説明願います。

事務局：（第２期犬山市自殺対策計画の策定について説明）

会 長：ありがとうございました。

それでは、これを以って、本日の会議を終了し、事務局へお返しします。

事務局：会長、ありがとうございました。

これをもちまして、令和４年度犬山市自殺対策推進協議会を終了いたします。

令和4年度 犬山市自殺対策推進協議会次第

日 時：令和5年2月7日（火）
午後2時～3時30

分

場 所：市民健康館 さら・さ

くら

204会議室

1 あいさつ

2 会長選出

3 協議事項

（1）犬山市の自殺の現状について

（2）コロナ禍における自殺の動向と犬山市における自殺対策事業について

（3）第2期自殺対策計画策定に向けて

3 その他

令和4年度 犬山市自殺対策推進協議会

犬山市の自殺の現状と 自殺対策事業について



令和5年2月7日(火)
犬山市健康推進課

「自殺総合対策大綱」(令和4年10月閣議決定)

自殺総合対策の基本理念

誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す

自殺対策は、社会における「生きることの阻害要因」を減らし、「生きることの促進要因」を増やすことを通じて、社会全体の自殺リスクを低下させる。

阻害要因: 過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立等
促進要因: 自己肯定感、信頼できる人間関係、危機回避能力等

5年毎に国が見直す
自殺対策の指針

別紙1参照

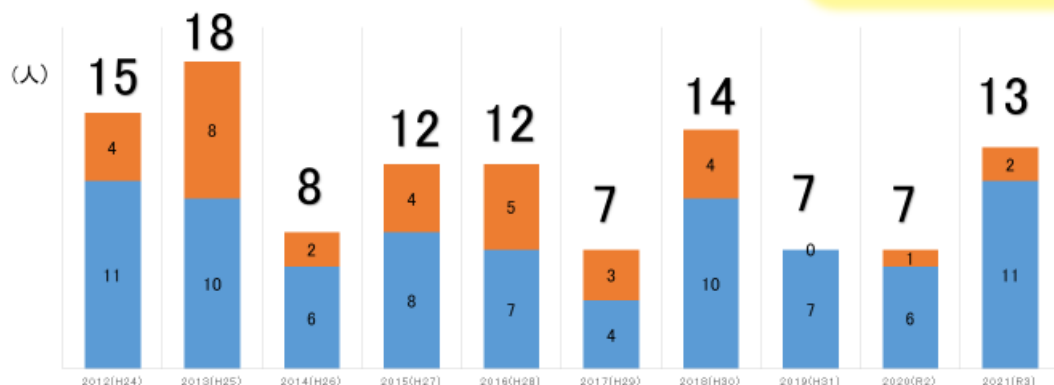
自殺総合対策における当面の重点施策の概要

- 1 地域レベルの実践的な取り組みへの支援を強化する
- 2 国民一人ひとりの気付きと見守りを促す
- 3 自殺総合対策の推進に資する調査研究等を推進する
- 4 自殺対策に関わる人材の確保、養成及び資質の向上を図る
- 5 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを支援する
- 6 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
- 7 社会全体の自殺リスクを低下させる
- 8 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ
- 9 遺された人への支援を充実する
- 10 民間団体との連携を強化する
- 11 子ども・若者の自殺対策を更に推進する
- 12 勤務問題による自殺対策を更に推進する
- 13 女性の自殺対策を更に推進する ← 新たに追加

1 犬山市自殺者数の推移

犬山市自殺者数の推移

■ 男性自殺者数 ■ 女性自殺者数

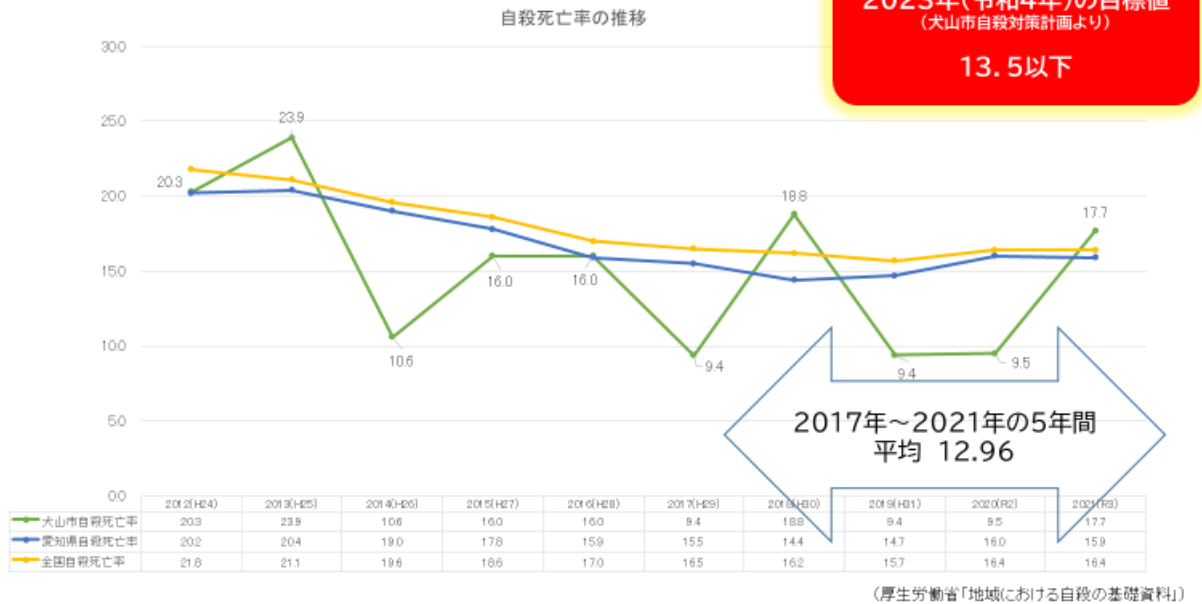


2023年(令和4年)の目標値
(犬山市自殺対策計画より)

10人以下

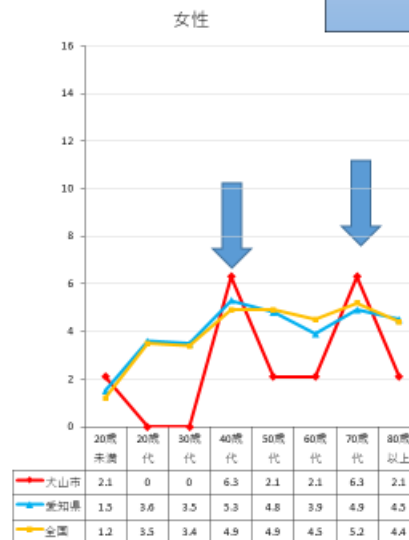
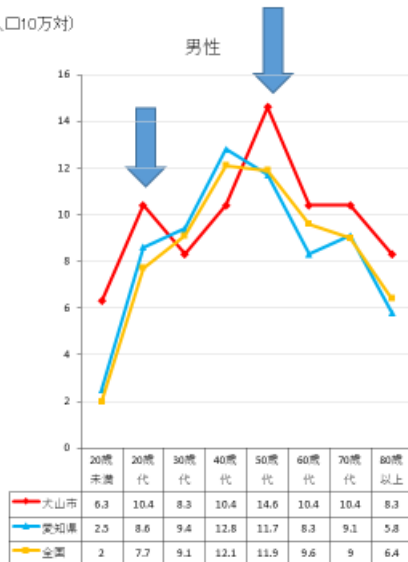
(厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)

2 犬山市自殺死亡率



3 性・年代別自殺死亡率(2017-2021)

(人口10万対)



愛知県や全国と比べ
男性は20代・50代の割合が多く
女性は40代・70代の割合が多い

「地域自殺実態プロフィール(2022)」

4 自殺者における自殺未遂歴の有無(2017～2021)

未遂歴	自殺者数	割合	全国割合
あり	9	18.8%	19.4%
なし	33	68.8%	62.3%
不詳	6	12.5%	18.3%
合計	48	100%	100%

約2割が
自殺未遂歴
あり

「地域自殺実態プロフィール(2022)」

5 自殺者の就業状況

年代	男性		女性		合計	
	有職者	無職者	有職者	無職者	有職者	無職者
20～39歳	5	4	0	0	5	4
40～59歳	8	4	1	3	9	7
60歳以上	2	11	0	5	2	16
合計	15	19	1	8	16	27

職業	自殺者数	犬山市割合	全国割合
自営業・家族従業者	3	18.8%	17.5%
被雇用者・勤め人	13	81.3%	82.5%
合計	16	100.0%	100.0%

※本表には20歳未満及び職業等不詳の5名を含まない

「地域自殺実態プロフィール(2022)」

6 犬山市の主な自殺の特徴

特徴

男性、高齢者 生活困窮者
勤務・経営 子ども・若者
無職者・失業者

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位: 男性60歳以上無職同居	8	16.7%	26.3	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位: 男性40～59歳有職同居	7	14.6%	16.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位: 男性20～39歳無職同居	4	8.3%	78.2	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
4位: 男性40～59歳無職同居	3	6.3%	101.9	失業→生活苦+借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
5位: 男性60歳以上無職独居	3	6.3%	73.6	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺

「地域自殺実態プロフィール(2022)」

7 犬山市における主な相談事業の昨年度の状況

担当課	名称	令和3年度の事業実績	令和4年度の実施状況
健康推進課	精神科医による こころの健康相談	相談を必要とする人に程よい頻度で相談機会を提供できている。 全12回実施し、28人が参加した。	R4年度:20件/年回数10回 (4月～1月31日現在) 内訳:不登校・引きこもり 8件 うつ病 2件 統合失調症 2件 その他(不眠・発達障害・ もの忘れなど)8件
文化スポーツ課	青少年の 悩み相談	・小中高生に対する相談窓口の周知は、学校を通じて全員に配布することができた。 ・課題を抱える青少年本人や保護者からの相談が多い。 ・仕事を持っている保護者や通学している本人のため、日中に相談に来ることができない人の希望に応じて、時間外や訪問にも努めている。また、時間外の窓口として第1と第3火曜日に19時まで窓口を延長した。 ・相談窓口周知のためのカード配付 小学生4,500枚 中学生2,500枚 高校生2,000枚 ・相談件数66件	令和4年度は12月31日までで、87件 高校に入学し、その後悩みを抱えた生徒や、 不登校の生徒の高校卒業後の就労相談などが目立った。
福祉課 高齢者支援課	ふくし総合 相談窓口	重層的支援体制整備事業として令和4年4月より開設。	令和4年度419件(令和4年12月末現在)

8 犬山市における自殺対策事業 (健康推進課)

事業名	目的・内容	令和3年度実績	令和4年度実施状況 (令和4年12月現在)
ゲートキーパー講座	ゲートキーパー(悩んでいる人に気づき、声をかけ話を聞いて、必要な支援につなげ見守る人)講座を実施し、その役割を担う人を増やすことで、悩みを抱える人の支援を早期に行えるようにする	・市民対象2回:計28人 ・職員対象(自己学習型):146人	・市民対象1回:20人 ・民生委員対象に2月10日開催予定
自殺予防キャンペーン	国の自殺対策強化期間である9月・3月を中心に自殺予防キャンペーンを実施し、自らの健康を保つ方法や身近な人の自殺のサインに気づき、必要な対応ができるよう情報提供を行う	9月・3月に関係機関で自殺対策普及啓発資材を配布。二十歳のつどいにおいて啓発資材を配布 広報(15日号)にこころの相談先を毎回掲載。	広報9月号に特集として自殺対策の記事を掲載 こころの相談、ゲートキーパー講座、引きこもり講演会の周知を行った。

事業名	目的・内容	令和3年度実績	令和4年度実施状況(令和4年12月現在)
子育て世代包括支援センター『すくすく♥いぬまる』相談事業	妊娠中～子育てに係る母子の不安や負担を軽減するため専用電話や専用メールへ相談をしてもらい回答をする。その内容によって専門職へつなぐ。 母子手帳交付時の妊婦に対する個別面談や助産師による産前の電話訪問を実施。産後うつや育児不安を見据え、早期にフォロー家庭を把握し産後のフォローにつなげる。	メール相談:3件 電話相談:41件 母子手帳交付時の個別面談:388名 妊婦への助産師の電話訪問:281名 産後ケア事業利用者:6名(実6名) 産後ケア事業利用日数:31日	相談件数:41件 多子世帯への紙おむつの宅配事業を開始。令和5年4月より、兄弟のいる産婦や、精神疾患をもつ人や、5か月児以降の乳児の育児を支援できるよう、アウトリーチ型のサービスも検討していく。
子育て相談	心理相談員による育児不安や育児ストレスを軽減するための相談を実施。	令和3年度:25件	精神発達の遅れにより育児困難感がある保護者は多い。また、育児疲労の強い保護者は多い。そのため、臨床心理士による相談により、問題解決の糸口を見つけられる契機になっており、必要な支援につなげることができている。相談件数18件
親子教室・スキップ教室	健康診査事業～相談事業で把握した母の育児ストレスや負担感を軽減することや親子の関わりを学んでもらうための教室として実施。母親の精神的な不安を把握し、必要な支援につなげる。	親子教室 延べ132人 スキップ教室 延べ29人	・少人数制で開催するため発達に心配を抱える親子に密に寄り添うことができ、必要な親子は早期療育につなぐことができている。 相談件数:41件

コロナ禍における自殺の動向について



新型コロナウイルス感染拡大前後の自殺者数の比較

	男女別	感染拡大前5年平均	平均との差(2020)	平均との差(2021)
全国	男性	14838.8	-924.8	-1052.8
	女性	6616.8	376.2	417.2
愛知県	男性	810.2	7.8	-13.2
	女性	368.2	28.8	39.8
犬山市	男性	7.2	-1.2	3.8
	女性	3.2	-2.2	-1.2

犬山市では
男性の自殺者が
増加

「地域自殺実態プロフィール(2022)」

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた自殺防止対策の強化

新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金

新型コロナウイルス感染症の影響による自殺リスクを抱える方に対して、都道府県等が実施する対面、電話、SNSを活用した相談支援体制を拡充するとともに自殺未遂者や自死遺族等に対する相談支援などを強化する。また、各種相談に対応する人材の養成や情報発信を強化する。

更に、民間団体が実施する自殺防止の取り組みに対して支援を行う。

【事業内容】

《地域自殺対策強化事業（都道府県・市町村）》

- ①相談体制の拡充
 - ・電話・SNS相談
 - ・対面相談
- ②自殺未遂者や自死遺族に対する支援の強化
 - ・自殺未遂者に対する継続的な相談支援
 - ・自死遺族等への相談支援や自助グループの活動支援
- ③相談員などの養成及び情報発信の強化
 - ・自殺防止相談等に携わる人材の養成
 - ・相談窓口や必要となる支援情報の積極的周知



《自殺対策防止事業（民間団体）》

- ・民間団体が実施する電話やSNS等を活用した自殺防止等に係る取り組みに対して支援を実施する。

精神科医によるこころの健康相談

R3年度：28件/年回数12回
内訳：不登校・引きこもり 10件

R4年度：20件/年回数10回
(4月～1月現在)

内訳：不登校・引きこもり 8件

うつ病 2件

統合失調症 2件

その他(不眠・発達障害・もの忘れなど)8件

引きこもり・不登校
に関する
相談が増加している

令和4年度新規事業

(新型コロナウイルスセーフティネット補助金対象事業)

興味があり参加

引きこもり講演会

日時: 令和4年10月5日(水)

13時30分～15時

講師: 高木 友徳医師(ともこころのクリニック)

会場: エナジーサポートアリーナ 会議室

参加者: 29人

家族
18人

その他
1人

支援者
10人

講演会でのアンケートより

質問		区分	家族	支援者	その他	計
			18	10	1	29
関心があること	就労について		8	4	1	13
	就学・通学について		5	5	1	11
	受診・通院について		5	3	1	9
	日常生活について		8	2	1	11
	友達関係について		5	1	1	7
	家族関係について		6	3	1	10
	本人への関わり方について		13	6	1	20
	本人や家族への支援方法について		8	9	1	18
	計		58	33	8	99
今後必要と思われること	家族が継続的に相談できる場所		11	7	1	19
	家族同士が話し合える場所		5	6	1	12
	本人が相談できる場所		15	8	1	24
	当事者同士が集う場所		4	6	1	11
	訪問にとる本人への支援		5	4	0	9
	支援者が相談できる機会		4	5	1	10
	計		44	36	5	85

第2期犬山市自殺対策計画について



今後のスケジュールについて



自殺対策強化月間

啓発資材を配布する予定です。
できるだけ多くの方に相談ができることを知っていただきたいので、ご協力をお願いします。

令和4年度	2月10日	ゲートキーパー講座(民生委員向け)
	3月	自殺対策強化月間 啓発資材の配布
令和5年度	5～6月	「自殺対策計画進捗確認シート」提出 ※厚生労働省
	7～9月	市民向けアンケート調査実施予定
	9月	自殺予防週間 広報掲載 啓発資材の配布
	10月	引きこもり講演会
	1月	二十歳の集い 参加者に啓発資材の配布
	1月～2月	自殺対策推進協議会
	3月	自殺対策強化月間 啓発資材の配布
令和6年度	年数回	ゲートキーパー講座
		第2期犬山市自殺対策計画策定

犬山市自殺対策数値目標

(1) 自殺予防の段階別目標

指標項目	計画策定時 2018年度	目標値 2023年度
一次予防(未然予防)		
SOSの出し方等に関する教育を実施している学校の割合	78.6%	100.0%
体のことや心配ごとについて相談できる人がいない児童・生徒の割合	児童 8.2% 生徒12.0%	児童 6.0% 生徒10.0%
自殺対策における街頭キャンペーンの実施回数	1 回	2 回
悩みや病気に関する相談先を知っている人の割合	—	60%
二次予防(危機介入)		
ゲートキーパー講座の受講者数	104人	800人
ゲートキーパーについて知っている人の割合	7.2%	30%
市職員の自殺対策研修受講者数	23人	500人
三次予防(連鎖予防)		
自死遺族支援について知っている人の割合	39%	50%

(2) ライフステージ別目標

指標項目	計画策定時 2018年度	目標値 2023年度
SOSの出し方等に関する教育を実施している学校の割合	78.6%	100.0%
ゆったりとした気分で子どもと過ごす人の割合	84.6%	88.0%
悩みやストレスの相談相手がいる人の割合(40～64歳)	77.0%	85.0%
地域とかかわりを持っていない人の割合(65歳以上)	12.2%	8.0%

(3) 自殺率の成果目標

指標項目	計画策定時 2018年度	目標値 2023年度
自殺者数(5年間平均・人)	13 (H24～H28)	10人以下
自殺死亡率(5年間平均・人口10万対)	17.4 (H24～H28)	13.5以下